

第1章 調査の概要

1 調査概要

(1) 調査目的

これからのかながわの教育について、中長期的な視点から今後の政策の方向性を検討するために、教育現場の課題意識やニーズの把握に努めるとともに、基本となるデータの収集を行い、教育ビジョンの策定に資する。

(2) 調査方法

ア 調査対象及び対象校数

調査対象：県内公立学校の児童・生徒（小学校5年生、中学校2年生、高等学校（以下「高校」と表記）2年生及び盲・ろう・養護学校生）、調査対象となる児童・生徒の保護者、調査対象校の学校評議員及び教職員、並びに県立総合教育センターにて指定研修を受講する教員。

対象校数：小学校 45 校、中学校 45 校、高校 23 校、盲・ろう・養護学校 5 校
計 118 校

イ 調査対象校の抽出方法

小中学校については、市町村教育委員会に抽出を依頼。政令市、中核市については各3校、その他の市町村については、各1校を選定。また、市立高校を有する市は、高校1校も選定。

県立学校については、地区、校種及び学科等のバランスを勘案し、県教育委員会が任意で抽出。

ウ 対象者の抽出方法

- ① 小中学校の児童・生徒は調査対象校の任意の1学級全員。高校の生徒は、調査対象校の任意の2学級全員。盲・ろう・養護学校の児童・生徒については、各学校の実状に応じて任意抽出。
- ② 保護者は、調査対象となる児童・生徒の保護者全員。
- ③ 学校評議員は、調査対象校の学校評議員全員。
- ④ 教職員は、調査対象校から6名（うち1名は校長又は教頭（副校長）とする）を任意抽出。県立総合教育センターで実施される指定研修（初任者、5年、10年、15年）の受講者全員。（以下「教員」と表記）

エ 調査の実施方法

小中学校については市町村教育委員会を通じて、県立学校については神奈川県教育委員会から直接、調査票を送付し、各学校において児童・生徒、保護者、学校評議員、教員に調査票を配布、回収。なお、教員のうち県立総合教育センター

の指定研修受講者については、講座実施時に配付、回収。

オ 調査時期

平成17年9月1日～9月15日（学校実施分）

平成17年8月8日～10月7日（県立総合教育センター指定研修実施分）

(3) 集計・分析

ア 集計・分析

集計に際しては、県立総合教育センターの協力を得て、集計作業、データ作成を行った。また、分析に際しては県立総合教育センター及び横浜国立大学教育人間科学部附属教育実践総合センター大島聡教授の協力を得て行った。

2 回収結果

本調査の回収結果は次のとおりである。

回収率：88.4% （配付総数：12,287 回収数 10,867（含む無効72））

(人)

校種 対象者	小学校	中学校	高校	盲・ろう・ 養護学校	計
教員	806	515	354	188	1,863
保護者	1,300	1,290	1,233	53	3,876
学校評議員	195	185	108	27	515
児童・生徒	1,394	1,446	1,636	65	4,541
計	3,695	3,436	3,331	333	10,795

※盲・ろう・養護学校の内訳（盲学校：4人、ろう学校：22人、養護学校39人）

（小学部：11人、中学部：15人、高等部：39人）

3 回答者の特性

各調査の回収標本の特性は次のとおりである。

(1) 性別

教員回答者の性別は、小学校では 58.6%、盲・ろう・養護学校では 66.0%で女性が、中学校では 61.6%、高校では 74.0%で男性が多くなっている。

保護者回答者の性別は、男性 12.6 %、女性 87.2%と大半が女性となっている。学校段階別に見てもこの傾向は変わらない。

学校評議員回答者の性別については、いずれも男性の割合が高く、高校 (73.1%)、盲・ろう・養護学校 (70.4%)、小学校 (62.1%)、中学校 (57.8%) の順に高くなっている。

児童・生徒回答者の性別は、ほぼ同じ割合になっている。学校段階でみると、中学生は男子 51.5%、女子 47.4%、高校生は男子 51.7%、女子 47.6%、盲・ろう・養護学校生は男子 56.9%、女子 43.1%で男子の方が多くなっている。(表 1 参照)

表 1

(%)

	教 員 (n=)					保護者 (n=)				
	小 (806)	中 (515)	高 (354)	盲ろう養 (188)	計 (1,863)	小 (1,300)	中 (1,290)	高 (1,233)	盲ろう養 (53)	計 (3,876)
男	41.4	61.6	74.0	33.5	52.4	9.5	12.9	15.7	11.3	12.6
女	58.6	38.4	25.7	66.0	47.5	90.5	86.7	84.1	88.7	87.2
無回答	0	0	0.3	0.5	0.1	0	0.3	0.2	0	0.2

	学校評議員 (n=)					児童・生徒 (n=)				
	小 (195)	中 (185)	高 (108)	盲ろう養 (27)	計 (515)	小 (1,394)	中 (1,446)	高 (1,636)	盲ろう養 (65)	計 (4,541)
男	62.1	57.8	73.1	70.4	63.3	49.3	51.5	51.7	56.9	50.9
女	37.9	41.6	25.9	29.6	36.3	49.6	47.4	47.6	43.1	48.1
無回答	0	0.5	0.9	0	0.4	1.1	1.1	0.7	0	1.0

(2) 年齢

教員回答者の年齢は、20~29 歳では、小学校 39.8%、中学校 24.5%、高校 9.6%、盲・ろう・養護学校 32.4%となっている。また、40~49 歳では、小学校 19.0%、中学校 30.9%、高校 43.8%、盲・ろう・養護学校 28.7%となっている。

保護者回答者の年齢は、小学校では、30~39 歳 (47.8%) と 40~49 歳 (48.6%) がほぼ半々になっている。中学校では、40~49 歳 (67.5%) が最も多く、次に 30~39 歳 (22.7%) となっている。高校では、40~49 歳が 74.7%に達し、50~59 歳が 20.2%

となっている。盲・ろう・養護学校では、30~39歳 20.8%、40~49歳 56.6%、50~59歳 18.9%となっている。

学校評議員回答者の年齢については、小学校では40~49歳（28.7%）、中学校では50~59歳（31.4%）、高校では50~59歳（41.7%）、盲・ろう・養護学校では60~69歳（37.0%）がそれぞれ多くなっている。（表2参照）

表2 (％)

	教員 (n=)					保護者 (n=)				
	小 (806)	中 (515)	高 (354)	盲ろう養 (188)	計 (1,863)	小 (3,876)	中 (1,290)	高 (1,233)	盲ろう養 (53)	計 (3,876)
20代	39.8	24.5	9.6	32.4	29.1	0.7	0.2	0.1	3.8	0.4
30代	24.7	22.5	28.2	31.9	25.5	47.8	22.7	4.2	20.8	25.2
40代	19.0	30.9	43.8	28.7	28.0	48.6	67.5	74.7	56.6	63.3
50代	16.0	22.1	18.1	6.4	17.1	2.4	8.4	20.2	18.9	10.3
60代						0.2	0.2	0.4	0	0.3
70以上						0.1	0.2	0.2	0	0.1
無回答	0.5	0	0.3	0.5	0.3	0.2	0.8	0.2	0	0.4

※教員の50代は50歳以上

	学校評議員 (n=)				
	小 (195)	中 (185)	高 (108)	盲ろう養 (27)	計 (515)
20代	0	1.1	0.9	0	0.6
30代	8.2	2.2	3.7	11.1	5.2
40代	28.7	24.3	13.9	11.1	23.1
50代	24.6	31.4	41.7	25.9	30.7
60代	22.6	25.4	25.9	37.0	25.0
70以上	15.4	14.6	13.0	14.8	14.6
無回答	0.5	1.1	0.9	0	0.8

報告書の数値・表現の扱いについて

- 数値については、その設問に該当する回答者（n）を基数として算出し、少数第2位を四捨五入して表示したため、各々の項目の数値の合計が100%とならない場合がある。
- 複数回答の場合、回答率の合計は100%を超える。
- グラフ中の設問項目の表現が回答者によって違う場合は、原則として大人は教員、子どもは高校生の項目の文言で表記した。

4 調査項目一覧

項目		教員	保護者	学校評議員	小5	中2	高2	盲ろう養
I 子どもの実態								
1	教育現場での児童・生徒の課題(最近の子どもの印象)	①	①	①				
1	自分自身について				①	①	①	①
2	子どもに影響を与えている存在	②	②	②				
2	自分とかわりの深いもの				⑥	⑥	⑥	⑥
3	夢中になれるとき(楽しいと感じるとき)				②	②	②	②
4	悩んでいること				③	③	③	③
5	相談相手				④	④	④	④
6	マナー・ルールの意識				⑤	⑤	⑤	⑤
7	校外での生活				⑩	⑩	⑩	⑩
II 子どもの将来像								
1	これからの世の中				⑧	⑧	⑧	⑧
2	どのような大人になりたいか				⑦	⑦	⑦	⑦
3	どのような大人になってほしいか	③	③	③				
4	はたらくことについて				⑨	⑨	⑨	⑨
III 家庭教育								
1	学校・家庭・地域での教育課題	④	④	④				
2	学校の役割・家庭の役割	⑤	⑥	⑥				
3	教育に関する情報のよりどころ		⑤	⑤				
4	自分の子をどのくらい把握しているか		⑦					
5	家庭でのしつけや教育の内容		⑧					
6	塾や家庭教師について		⑨					
7	塾などに行かせる理由		⑩					
IV 学習活動								
1	学習指導の重点	⑧	⑪	⑦				
2	教科やその他の活動の重点		⑫	⑧				
3	勉強する理由(学校に行く理由)				⑬	⑬	⑬	⑬
V 教員像								
1	現在の教員についての印象		⑬	⑨				
2	日々の業務で感じていること	⑥						
3	望ましい教員像		⑭	⑩				
4	めざす教員像	⑦						
5	教わりたい先生				⑭	⑭	⑭	⑭
VI 学校と地域								
1	学校への地域の望ましい関わり方	⑩						
2	学校、家庭、地域との連携			⑪				
3	地域で活動できること		⑮					
VII 学校のあり方								
1	諸課題の解決方策と学校のあり方	⑨	⑯	⑫				
2	学校に行きたくないとき				⑪	⑪	⑪	⑪
3	学校に行きたくない理由				⑫	⑫	⑫	⑫
4	学校がどのようにになったらよいと思うか				⑮	⑮	⑮	⑮
VIII 県が取り組むべき施策								
1	県が取り組むべき施策	⑪	⑰	⑬				
2	神奈川らしい教育に生かしたいもの	⑫	⑱	⑭				
IX 特定課題								
1	特別な支援を必要とする児童・生徒への対応	⑬						
2	キャリア教育へ期待するもの	⑭						
3	ボランティア活動へ期待するもの	⑮						
4	自身のボランティア活動経験	⑯						
5	あなた自身のボランティア活動経験の内容について	⑰						
6	ボランティア活動に参加しなかった主な理由	⑱						
7	現在の様々な教育課題の解決に向けた望ましい研修のあり方	⑲						

※○数字は、調査票の設問番号